

2012 年度活動テーマ
発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。
人々の協同で被災地復興と大地再生。

発酵と復興 2年目

COOP-JOSO News Letter

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

6/9 (土) は 第39回「総代会」

9:30 ~ 12:00 つくば国際会議場 1F 大会議室

「総代会」は生協の最高議決機関。



一年の運営・事業のまとめと 2012 年度活動方針が決定されます。このニュース裏面に私たちの代表 = 「総代」さんの名簿を掲載しています。

「総代」さんには今週「召集通知」を送らせて頂いています。よろしく願いいたします。

総代会の「傍聴」も可ですので、ぜひご参加ください。

(下記、傍聴申込み)

生産者と共に！

同日 (6/9) 午後 (13:00 ~ 15:00) 国際会議場1F

「生産者との交流会」

を計画しました！



昨年の交流会

たくさん生産者が来てくれます。
生産者の生の声、悩み、つながり、
ぜひ直接会って語りあいましょう。

(参加申し込みは下記にて)

【参加予定生産者】

(農業) 野菜セットの各生産者 (天池さん、長島さん、宇治田さん、清水さん)、岩泉産業開発、藤井養蜂場、白鷹農産工研究会、たちばなファーム、やさと、中村農芸 (酪農 / 畜産) 鈴木牧場、日本酪農、鎌倉ハム (水産) 塩屋、はらがま朝市クラブ、コタニ、高橋徳治商店、遠忠食品、リアス (食品) 調味料加工関係: 沼屋本店、登喜和食品、東京コールドチェーン、飛鳥食品

総代会傍聴・被災生産者激励交流会参加申込書 (生協へ 〆切 6/8)

- 「総代会」を傍聴します。(9:30 ~ 12:00)
- 「生産者交流会」に参加します。(13:00 ~ 15:00)

コース名 _____ 班名 _____

氏名 _____ (人数) _____ tel _____

【5/17 東海第2原発廃炉を求める17万人署名 橋本茨城県知事との面会】

東海第2原発廃炉を求める17万人署名に対し

茨城県知事、ようやく面会



左が知事。その左に相沢さん、小張さんから



私たちの知事宛手紙を手渡してくれた増田さん

東海第2原発廃炉署名17万2千名の署名提出にあたって、三度にわたって欠席した茨城県の橋本知事が、ようやく6名に制限して署名団体代表と面談する機会を設けました。

署名呼びかけ人の東海村・相沢さんをはじめ、脱原発ネット茨城代表の小張さん、そして先日東海村で交流したひたちなか市の増田さんらが代表で面談しました。

面談は、30分の予定が1時間を超え、マスコミにも最後まで公開するという異例の「演出」。

「逃げていくという批判があるが、日程があわなかっただけ」とし、知事の廃炉への決断とリーダーシップの求めに対しては「決定するのは国。国に署名を持っていかないとおかしいのではないか」、「私は中立の立場でいたい」などと発言。今後も自らが率先する気はないと。

母親らの健康診断の要請に対しては「疫学調査の必要性は分かっているが、費用対効果を考えて今はやらない方がいい」、ホールボディカウンターによる放射能検査の要請に対しても「効果が薄く、かえって不安を引き起こす」と。

他方で、国からの再稼働要請があった場合には「皆さんらの17万人余の署名も参考に判断したい」「東海第2の再稼働の動きは最後になるだろう」とか、「15年の防潮堤建設は（廃炉が決まれば）無駄な投資になるからやめた方がいいと言っており、やっていない」などと、暗に廃炉の可能性をほのめかすなど、裏では何か確証を得ているかのような発言も、まるでタヌキのような応答。マスコミを前に終始笑顔のポーズをつくりながら、面談を逆に自己の考えを宣伝する場に使っているかのような会見でした。

県民の生命と財産を守ることが基本的仕事であるべき「地方自治の長」に訴えているのに、政治バランスの上で中立であるだけの無主体であるかと思えば、子どものように自分の考えを披瀝するオタクのような「知事さん」に「いったいあなたは何なの？」と聞きたくになります。

福島第一原発事故による被ばくや汚染を受けた県民の真剣な訴えに対して、自己の立場の政治均衡を謀る「かけひき」のような権謀的手管をもって応答する態度には、「誠実さ」というものが感じられません。

「東海第2原発で重大事故あるとき、県内にある通園・通学用まで含むすべてのバスを集めても、半径30kmのUPZ（緊急防護措置計画区域）にいる106万人のうち、一度に29万人しか避難させられない」と県議会で答弁していながらなお、「決定するのは国」「私は中立でいたい」などと平気で言えることがよくわかりません。

原発稼働に「地元自治体の合意と理解」が必要である以上、再稼働中止と廃炉にとって県知事はひとつの要。継続して県民の声をぶつけて決断を迫ることが必要です。

【5/17 橋本茨城県知事との面会】

県知事への手紙を託しました

「お母さんたちの声を知事に！」との増田さん・小張さんらの呼びかけで、急きょ生協でも脱原発委員会のメンバーに知事宛の手紙を書いて頂き、彼女たちに託しました。

茨城県知事 橋本昌 様

処分できないゴミを出す原子力発電はやめてください。

今あるゴミは半永久的に監視や保管などの措置を続けなければなりません。

日本がこれからどういう国になるか、どのような方向を向いていくのか決める大事な時です。原発という人間が作りあげた恐ろしい怪物とは縁を切り地球本来が持っているエネルギーを使って共生していくことにこそ人類の英知を使うべきではないでしょうか。経済の発展という目先のことにとらわれないでください。

原発による利権も捨てましょう。茨城県にはそんなものに頼らなくてもやっつけられるたくさんいいものがあるはず。郷土に誇りを持ち、それをアピールするためにみんなの大切な税金を使ってください。

ドイツが脱原発宣言をしたように茨城県から宣言しましょう。

つくば市の組合員

橋本知事さま
はじめまして、戸塚亜紀子と申します。現在2歳になる娘・美笛がおります。
私は実家の母に「もし東海で福島のようなことがおきたら、美笛と私はこの世にはいないものと思ってください。」と言っておられます。大げさかもしれませんが、全く嘘だとも思えません。
このような気持ちで生きるって、どうなのでしょう？
本当に原発は必要なのでしょう？
自分達の今がよければ子ども達の未来はどうだってよいのでしょうか？
子ども達が明るい未来を想像できないような社会にしたいのでしょうか・・・。

牛久市の組合員

「知事への手紙」

私は、3.11まで、放射能のこと、原発のこと、何も知らずにきました。

でも、放射能は毒であり、母として子どもには吸わせたくない、被曝させたくない、という思いだけは持ち合わせておりました。

医療被ばく1つにしても医師と相談しながら、おやつ一つにしても手作りで無添加を心がけ、ただただ健康にと願って、努力してきました。

それが親としてやるべきこと、できうることだと思って。

自然の中で、生きる大切さを感じながら、子育てしてきました。

ただあの事故で、大事なものが一瞬のうちに奪われました。

本当に悔しい、でも一度おきてしまったら、取り返しがつかない、もう遅いのです。

生命あふれる海へ、毎年、磯遊びに出かけていました。

小さかった息子、初めは怖がって触れなかったのに、バケツ一杯集めたイソギンチャク。

「食べたい！」ただそれだけで一生懸命とった、シツタカ(貝)。

色が出るのを楽しみながら、怖々と触ったアメフラシ。

足で踏みながら気づかなかった、岩いっぱいのはじき。

去年できなかったこと、今年できた！

去年知らなかったこと、今年解った！

子どもの笑顔とともに、成長を感じながら。

「来年は、岩の上から海の絵を描きたい！」と息子。

「そうだね、コーヒーでも飲みながら描こうかな。」と私。

事故の前の年には、綺麗な溪流を見たい、子どもにも見せたい、と思いたち。

それはそれは本当に綺麗な溪流で、心が洗われ

るようでした。

息子は、本を片手に生まれて初めての釣りを。

天然のイワナが釣れた！！それはそれは目を輝かせて。

じっくり炭火で焼いて、その間20分くらいだったかな、じーっと待って、動かないで。

息子の目は真剣そのもの。

私たちにも一口くれて、本当に美味しそうに食べて。「あ～美味しかった～。来年も来ようね！来年は何しようかなあ。」

期待に夢膨らませ後にした溪流。
もちろん、来年も来る、と書いて。

ところが翌年の事故。

海には放射性物質が大量に流れ込み、イワナからは放射性物質が検出されました。

涙が出た、悔しかった。

本当は、除染なんかでは済まされない。

引越せばいいということではない。

これから未来を背負っていく子どもたちに残す大地、自然。

そこに毒を撒いて、使用済み核燃料の後始末もできていないまま。

これ以上、子どもたちに負の遺産を残すわけにはいかない。

ただただ、普通に暮らしたい。

畑で採れた野菜を丸かじりして、海へ行って思い切り泳いで、美味しい空気を思い切り吸って、落ち葉の中に寝ころんで。

望んでいるのは、ただそれだけのことなのに、子どもの命を育むための食事の数値を測り、子どもたちが遊ぶ公園の線量を測り・・・。

何故、こんなことをしなければならぬのでしょうか。

基準値決められたところで、誰にも私の息子の健康を保障できないでしょう。

一人一人の安全も保障できないで、再稼働なんてありえません。

私も、子どもたちの未来のため、勉強を続けます。

知事も、東海第二原発廃炉に向け、どうか宜しくお願ひします。

阿見町の組合員

茨城県知事 橋本昌様

茨城は、曾祖父母の代からのふるさとであり、私も豊かな自然を堪能して育ち、親となり子育てをしてまいりました。小中学校で茨城県民の歌や県民体操を覚え、鹿島の開発も、東海村の発展も、つくば研究学園都市の充実も、わが事のように誇らしく思っております。

その期待が、広島・長崎の半永久的に続く苦悩を知り、まず心配に変わりました。あのチェルノブイリ原発の事故当時には、幼子を抱えた私は、子どもを守るために必死でした。次にJCOの事故に出会ったときは、不安と恐れに慄きました。ひとの幸せのためであったはずの科学技術が恐ろしい牙を剥く事実を知ってしまったからです。

今回の福島原発の事故に、徹底的に打ちのめされたのは、知事も同じだったではありませんか。一生懸命子育てをしかわいい孫にも恵まれ世の中に少しは貢献してきたと自負してきた私たちが、子や孫の未来へ残すものがこんな恐ろしい怪物であったことは、私たちの一生の悔いに他なりません。

私たち中高年の県民にとって、この福島の惨事は決して他人事ではなく、いったん茨城で起こってしまえば、茨城県のみならず日本のすべての地域・コミュニティも消滅すると思ひ至ったのです。連日の地震速報に、東海原発のことを考えない日はありません。まして福島・茨城の県境の地震は今後100年以上続くと言うではありませんか。

今、私たち大人が出来ることは何か。代々受け継ぐべきものは何か。それは便利な生活ではなく、安全に暮らせ、日々の糧を得られる豊かな土地一国土ではないでしょうか。もう、2度も恐ろしい体験をした茨城県民は、ここで決断しなければいけないのです。もう決してこれ以上の悲劇が起きることのないよう、大人の責任で、原発を止め、この危険・破滅を防がなければいけないのです。

橋本知事におかれましては、この未曾有の困難にあつて、大変なご苦勞をされていることは重々承知しております。それと同時に、この危機に自らの手で自らの判断で立ち向かえる唯一の人間であることを、強く自覚していただきたいのです。貴方が300

万人近い県民すべての命運を握っているというのは、誇張ではありません。

安全で平和な暮らしがあってこそこの日本であり、茨城です。貧しさは耐えられると、私たちの世代は体験しております。子どもたちの未来のために、知事が歴史に残る決断——東海原発の停止を決定されるよう、私共は祈りに近い気持ちで願っております。そのために起こりうる問題の解決のためには、皆で知恵を絞り、助け合って知事をお支えする覚悟しております。ふるさと茨城を子どもたちに継承するために、どうぞ決断ください。

龍ヶ崎市の組合員

茨城県知事 橋本昌 様

前略

突然のお手紙大変失礼致します。

わたくしは茨城生まれの茨城育ちのごく普通の主婦でございます。

お陰様で今までこの地、茨城県取手市で幸せに暮らしてまいりました。

がしかし、昨年原発事故以来、私たちの生活はだいぶ状況が変わってしまいました。

文科省が発表した『文部科学省及び茨城県による航空機モニタリングの結果』の放射能汚染地図上の、一番濃い青色で示されたホットスポットと呼ばれる取手市の中で最も線量が高い白山地区在住。(セシウム 134 と 137 の合計沈着量 60 ~ 100 k B q / m³) 市のホームページで定期的に発表されている空間線量は毎時 0.21 ~ 0.22 程ですが、自前の測定器で自宅の周りを測ると 0.5 ~ 0.6 マイクロシーベルトくらいは常に出ています。

こんな所ではたして子育てなんかしているのだろうか??と、小さなお子さんを持つお母さんたちは、精神を病む程不安や心配をかかえ、行政に対し必死に訴えても、残念ながら少しも寄り添ってくれていません。

私自身、生まれ育ったこの茨城県が大好きです。いくら『魅力の無い県ランキング』の一位に選ばれようと、ぜんぜん気にしたりしませんでした。私たちは知っています、ここは歴史があり、食べ物もおいしく、景観的にも素晴らしい場所がてんこ盛りだと。ここだけの話ですが、単なる「お狩り場」の千葉や埼玉とは『格』が違いますから！

先日、高校3年の息子の、バスケの試合の応援に桜川市岩瀬を訪れました。

こちらの取手からは筑波山の脇の道をひたすら北上するのですが、この道すがらの景色が素晴らしく、ただ車を走らせているだけなのにあまりの美しさに自然と涙が溢れ出します。

筆舌しがたい程の景観、数々の歴史にゆかりのある土地。そして何より、この筑波山の頂を中心とした周り一帯の肥沃の大地は、茨城県を代表する数々の名産品を育てている所です。

あ〜、それなのに・・・よくも放射能で汚染してくれたなっ!!!と、新緑で彩られた美しい山並みとは裏腹に、悔しさとむなしさで心が張り裂けそうでした。

東海村には、原子炉の他、いろいろな原子力関連施設があると聞いております。昨年の福島第一原発の事故だけでもおびただしい量の放射線を、私たちのふるさと茨城県は被爆してしまいました。

この素晴らしい肥沃な大地と、子どもたちの輝かしい未来に【手おくれ】が生じないよう、この茨城県の歴史に恥じないご英断をしてくださることを、切に願うものであります。

末筆ながら、どうぞお体ご自愛くだしまして、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

かしこ 平成 24 年 5 月 15 日 取手市の組合員

茨城県知事 橋本殿

県のトップとして、どうか東海原発に事故が起こったと想像してください。福島の事故以来、このような想像が荒唐無稽で無いことは認識しておられると思います。30年以上前、茨城県に転勤してきて、茨城の豊かさが気に入って東京へ戻ることなくこちらに落ち着きました。

もし東海原発に事故が起これば、茨城県は海も、野山も、田畑も失うこととなります。それ以上に県民に回復することの出来ないダメージを与えます。そのダメージは何世代にも受け継がれることとなります。

県民のために、次の世代の子供たちのために、事の起こる前にどうか東海原発を廃炉にして、茨城の豊かさを護ってください。

つくば市の組合員